

■著者紹介

勝田 悟 (かつだ さとる)

1960年、石川県金沢市生まれ。

東海大学教養学部人間環境学科・大学院人間環境学研究科教授。

工学士（新潟大学）〔分析化学〕、法修士（筑波大学大学院）〔環境法〕。

＜職歴＞政府系および都市銀行シンクタンク（研究員、副主任研究員、主任研究員、フェロー）、産能大学経営学部（助教授）を経て、現職。

社会的活動として、中央・地方行政機関、電線総合技術センター、日本電機工業会、日本放送協会、日本工業規格協会他複数の公益団体・企業、民間企業の環境保全関連検討の委員長、副委員長、委員、アドバイザー、監事、評議員などをつとめる。

【主な著書】

[単著]

『ESGの視点 環境、社会、ガバナンスとリスク』（中央経済社、2018年）、『環境学の基本 第三版』（産業能率大学、2018年）、『CSR 환경 책임 (CSR環境責任)』（Parkyoung Publishing Company, 2018）、『環境概論 第2版』（中央経済社、2017年）、『環境責任 CSRの取り組みと視点―』（中央経済社、2016年）、『生活環境とリスク―私たちの住む地球の将来を考える―』（産業能率大学出版部、2015年）、『原子力の環境責任』（中央経済社、2013年）、『グリーンサイエンス』（法律文化社、2012年）、『環境政策―経済成長・科学技術の発展と地球環境マネジネント―』（中央経済社、2010年）、『地球の将来―環境破壊と気候変動の驚異―』（学陽書房、2008年）、『環境戦略』（中央経済社、2007年）、『早わかり アスベスト』（中央経済社、2005年）、『知っているようで本当は知らない シンクタンクとコンサルタントの仕事』（中央経済社、2005年）、『環境情報の公開と評価―環境コミュニケーションとCSR―』（中央経済社、2004年）、『持続可能な事業にするための環境ビジネス』（中央経済社、2003年）、『環境論』（産能大学；現産業能率大学、2001年）、『汚染防止のための化学物質セーフティデータシート』（未来工研、1992年）など。

[共著]

『企業責任と法―企業の社会的責任と法の在り方―〔企業法学会編〕』（文眞堂、2015年）、『文科系学生のための科学と技術』（中央経済社、2004年）、『現代先端法学の展開〔田島裕教授記念〕』（信山社、2001年）、『薬剤師が行う医療廃棄物の適正処理』（薬業時報社；現じほう、1997年）、『石綿代替品開発動向調査〔環境庁大気保全局監修〕』（未来工研、1990年）など。